

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名	ダイオキシン類対策	所管局部課等	環境政策局環境企画部環境指導課
ホームページアドレス	http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-2-3-0-0_1.html	(連絡先)	213-0928
		(評価票作成者)	環境指導課長 白居 保

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価
7,700	11,500	現状のまま継続	10,840	指標：ダイオキシン類に係る京都市環境保全基準達成率
業務運営方法	☐ 直営 ☐ 部分委託 ☐ 部分補助等 ☒ 全部委託 ☐ 全部補助等	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 委託先：(株)ユニチカ環境技術センター 一般環境中(大気、河川水質・底質、土壌、地下水)のダイオキシン類常時監視及びダイオキシン類対策特別措置法に基づく大気基準適用施設に対する排出ガス測定		かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	ダイオキシン類対策特別措置法、京都市小型焼却炉に係るばいじん及びダイオキシン類排出抑制指導要綱			事務事業の性格 ☒ 義務的事業 ☐ 任意的事業
開始時期	平成 10 年度	終了(予定)時期	平成 年度	類型 4 規制・指導
				会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計

事業概要	対 象	(誰を、何を) 一般環境(大気、河川水質・底質、土壌、地下水)及びダイオキシン類対策特別措置法に規定する工場・事業場
	活 動 内 容	(どのような手段で) ダイオキシン類の汚染状況を把握するために、一般環境中(大気、河川水質・底質、土壌、地下水)の常時監視を行う。また、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく大気基準適用施設に対する排出ガス測定及び監視・指導並びに法令に基づく届出審査を行う。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 市民の健康を保護し、かつ、快適な生活環境及び良好な自然環境を保全し、その状態を維持していくことを目的とする。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H 2 2 年度決算	H23年度予算	H24年度予算	
	①	事業費	(千円)	8,764	8,348	7,700	11,500	10,840
	①'	委託料	(一般環境中の常時監視等)	8,764	8,348	7,700	11,500	10,840
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷①) (%)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)		24,423	20,182	22,556	22,556	22,556
		職員 (課長級) (人)		0.18	0.11	0.15	0.15	0.15
		職員 (課長補佐級、係長級) (人)		0.50	0.60	0.54	0.54	0.54
		職員 (係員) (人)		2.00	1.50	1.87	1.87	1.87
		嘱託職員等人件費 (千円)						
	④	年間経費 (①+③) (千円)		33,187	28,530	30,256	34,056	33,396
⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)							
	国庫・府支出金 (千円)							
	受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)							
	その他() (千円)							
⑥	京都市年間負担経費 (④－⑤) (千円)		33,187	28,530	30,256	34,056	33,396	
⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

Ⅱ 評価結果

事業名 ダイオキシン類対策

Ⅱ-2 業績評価 (Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略)

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	ダイオキシン類に係る京都市環境保全基準達成率	目標値 …①	%	104	104	100	100	100
		実績値 …②	%	104	104	100		
		目標達成度 (②÷①)	%	100.0%	100.0%	100.0%		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価	かなり良い	かなり良い	かなり良い		
指標2		目標値 …①						
		実績値 …②						
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類		評価					
総合評価								

	指標の選択理由	目標値設定の考え方
指標1	ダイオキシン類に係る京都市環境保全基準が定められており、市民の健康を保護し、快適な生活環境及び良好な自然環境を保全するうえで維持されることが望ましいことから、各測定地点における測定項目ごとの京都市環境保全基準の達成率を指標とする。	平成21年度までは測定項目すべてが基準を達成することを目標としていたが、測定項目数は年度によって増減するため、平成22年度以降は達成率（測定項目数に対する達成項目数の割合）100%を目標値とする。
指標変更の有無	☒ 有 ☐ 無 変更前の指標名 京都市環境保全基準の達成項目数	適用年度 平成21年度まで 単位 項目
指標2		
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無 指標名	適用年度 単位
分析	<実績値の変動理由等> 平成21年度と同様に平成22年度も測定項目すべてが京都市環境保全基準を達成している。	

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	常時監視測定項目数	項目	104	104	104
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円	33,187	28,530	30,256
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	319,108	274,326	290,924
	④	単位当たり経費変動率			-14.0%	+6.1%
分析						評価
	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の経費が増加したため効率性が悪くなった。 平成22年度から、各保健所で行っていた公害関係業務を効率的にするべく、市内2箇所の環境共生センターで集中管理する組織改正を行った。					かなり良くなった 悪くなった

C 市民参加度	企画段階 ☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無 実施段階 ☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無 評価段階 ☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無	<現状分析、今後の方針等> 対象が一般環境（大気、河川水質・底質、土壌、地下水）及びダイオキシン類対策特別措置法に規定する工場・事業場であり、一般市民の参加はない。
D 市民満足度	<調査の有無> ☐ 有 ☒ 無 ☐ 該当しない <調査方法> <調査時期>	<調査結果、現状分析等>
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	☒ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般	<現状分析、今後の方針等> 今後も工場・事業場の監視指導を行うことで、市民の健康を保護し、かつ快適な生活環境及び良好な自然環境を保全し、京都市環境保全基準の達成状況を維持していく。

平成23年度の実施状況	一般環境中のダイオキシン類の常時監視を実施するとともに、ダイオキシン類の発生源である工場の焼却炉等に対する排出ガス測定、監視指導及び法令に基づく届出等の審査を行った。
-------------	---

市会・監査・外部機関等からの指摘	
------------------	--

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	（今後の方向性の理由及び具体的な内容） 平成24年度は常時監視委託単価を見直すことで経費を削減する。 なお、引き続き一般環境中のダイオキシン類の常時監視（大気、河川水質・底質、土壌、地下水）及びダイオキシン類の発生源である工場の焼却炉等に対する排ガス測定を実施するとともに、工場等に対して効率的かつ効果的な監視指導を行うことで、京都市環境保全基準達成率の100%を維持する。
---------	---